

警官40人程度を増員

水俣事件 今月中に処理

上原本部長談

ことしの当面する諸問題について警察庁と折衝、報告のためさる十六日から上京中だった上原県警本部長は二十二日帰任、警察官の増員問題や八代署改築の明るい見通し、下全タムの測量延期から水俣事件の一月打ち切り、四山争議には慎重にのぞむなど次のように語った。

【警察官増員問題】昨年が大都市の警備面に重点がおかれ全国で二千五百人、本県は二十人増員されたが、今年も三千人増員と昨年より五百人増えているので、本県としては五十人増員を望んでいるが、四十人前後にきまるもよう。これにともな、宿舎の問題もあったが、本県の場合毎年五百万円の

予算で十戸の住宅を建てているのでこんどもこれを進めてゆく。

【水俣問題】事件全体とその後の検査などを報告したあとこんこの方針、指示を仰いだ。わたくしと前後して寺本知事から警察庁次長に「もはや問題は解決している。しかも住民は反省しているので、このさいあまり強行するのはマイナスになるのでできるだけ穏便にしてほしい」という要望もあった。警察としては検察庁との事務的な面、また警察の人事の面などもよく話し合って事件の処理を進めて行く。今月中にはおわりたいと思っている。